

高浜市公共施設シンポジウム 「学校を拠点とした 公共施設のカタチ」

報告

高浜市公共施設シンポジウム（3月26日開催）

「学校を拠点とした公共施設のカタチ」

—高浜市の「公共施設のあり方」や動き始めた「高浜小学校等整備事業（高浜小学校への公共施設の複合化）」について、市民の皆さまが抱える疑問や不安について、全国事例を交えながらみんなでいっしょに考えていきたい—

これから高浜市が歩もうとしている学校を拠点とした公共施設のカタチを1人でも多くの市民に関心を持っていただくため開催された高浜市公共施設シンポジウム「学校を拠点とした公共施設のカタチ」について報告します。

当日は約100人の方に参加をいただき、第1部では千葉工業大学准教授の倉斗綾子先生による基調講演「学校を拠点とした公共施設のカタチ」を、第2部では高浜市のまちづくりに詳しい日本福祉大学教授の吉村輝彦先生をコーディネーターに、基調講演をいただいた倉斗綾子先生と高浜小学校等整備事業選定評価委員会の委員でもある名古屋市立大学教授の鈴木賢一先生を鼎談者としてお迎えし「そこが知りたい！学校を拠点とした公共施設のカタチ」と題し、参加者から事前にいただいた質問・意見についてさまざまな事例を交えながらお話をいただきました。

第1部 | 学校を拠点とした公共施設のカタチ |

千葉工業大学准教授
倉斗綾子先生



第1部の基調講演では、文部科学省の「学校施設と他の公共施設等の複合化検討部会」委員も務める倉斗先生より、学校施設の複合化事例を見ながら、複合化によってどのようなシーンが生まれているのかなど今後の高浜市の公共施設のあり方につながるさまざまなキーワードが出てきました。

- ◎施設の複合化で多世代が同じ空間にすることで、自然な交流のなかでお互いの状況を知ることができる。
- ◎地域開放ではなく地域施設としての学校。
- ◎セキュリティのレベルは地域差が大きく本当にさまざまです。
- ◎ワクワクする公共施設再編。
- ◎公共施設再編は単なる統廃合ではなく、これまでの枠組みや管轄意識というものを超えて、新しい将来に向けての関係を作っていくチャンス。
- ◎セキュリティ・交流・コミュニティは竣工した後も続く非常に重要な課題。これは地域の方が本気にならないと解決しない問題。
- ◎これからの世代に明るい未来を示すため、明るい未来を見ようとする努力がとても重要。
- ◎笑顔で取り組む！